

【天底チャート MT4】

メタトレーダー トレードマニュアル

株式会社ケンコンサルティング
KEN Consulting Inc..

■ はじめに

本マニュアルは、著作権法で保護された著作物です。

本マニュアルの取り扱いについては、以下の点にご注意ください。

著作権について

本マニュアルの著作権は、株式会社ケンコンサルティングに属します。

著作権者の書面による事前の許可無く、本マニュアル等の一部、または全部を印刷物、Eメール、電子書籍、電子ファイル、ホームページ、ウェブサイト、ブログ、SNS、ボイスレコーダー、テープレコーダー、CD やDVD の記録媒体等、あらゆるデータ記録手段により、複製、転載、流用、公開、貸与、売却（オークションやインターネットショップなどでの転売等を含む）公衆送信等を行うことを禁止いたします。

著作権の侵害を行った場合、5年以下の懲役または500万円以下の罰金に処せられます。

■ 目次

1. 天底チャートとは … 3P
2. 矢印サインとストキャスティクス線の基本説明 … 8P
 - ・ 矢印サインの説明
 - ・ ストキャスティクス線の構成と見方
3. 天底の判断材料としてのストキャスティクス線 … 10P
4. 天底チャートでの基準時間足について … 11P
 - ・ 1時間足を使用する理由①
 - ・ 1時間足を使用する理由②
5. 複数の時間足チャートで見ることの重要性 … 14P
6. 天底チャートの動きのシュミレーション例 … 17P
7. 天底チャートでのエントリー・利確・損切りについて … 18P
 - ・ 矢印サインをどの程度まで利用すべきか？
 - ・ 天底チャートでの矢印サインの位置づけ
 - ・ 矢印サインを使ってのエントリーとエグジット(利確)
 - ・ 利確幅と損切り幅について
8. 日経225先物取引について … 27P
9. サイン発生時のアラート音・メール通知機能について … 28P
10. サポートについて … 31P

1. 天底チャートとは

チャートの画面構成



天底チャートを構成する一つは、RCI（画面構成中段）です。

RCI（Rank Correlation Indexの略）は、「順位相関係数」と呼ばれています。

ある期間内の終値に上昇順位をつけ、その期間の日数との相関関係を指数化したもので

「上がり始め」「下がり始め」の時期とタイミングを捉える指標です。

次のページのチャートをご覧ください。



これは、2016年8月のドル円1時間足チャートです。

一般的なRCI設定(パラメーター=9)で表示した場合、上図のようになり、

これでは参考程度にしかならず、ほとんど役に立ちません。

では、次のチャートではどうでしょう。



同じ時点でのチャートですが、RCIの線の密集点が、ローソク足での高値・安値の転換点のポイントとほぼ一致していますので、一目でここが転換点というのがお分かり頂けると思います。

RCI自体は、古典的なありふれた指標で、1本表示では、視覚的には流れを掴む程度のものですが、10本前後の重ね表示にすると、かなり直感的に、視覚的に理屈抜きに転換点がわかり易くなります。視覚的に捉えた特徴から言うと他の古典的指標で、ダマシも多い、MACDやRSI等と比較してRCIには、相場の転換点において、遅いRCI線と速いRCI線が折り返し点で必ず規則的に交差する、つまり、ボトムから上向きに上がる時に、遅いRCI線を速いRCI線が上抜く、という特徴があります。

上図のようにRCIのパラメーターを変えながら10種類前後として複数本の重ね書きをしたとします。

すると、明確な上昇、下降の相場の転換点では、非常に整然と、ちょうどメビウスの輪(メビウスの帯)のように複数本の束が密集して下限、或いは上限に収斂した形で転換を示します。

ゆるやかな小さな相場転換では複数線がバラけていて、特に遅い方のRCIは充分に上限、下限に付き切らない形でゆるやかに推移します。つまり、遅いカーブを見ていれば、相場は今上げ波動の何合目ぐらいにいるか、下げ波動の何合目ぐらいにいるかを概ね推測できるわけです。

そして、全てのRCI線がその上下の限界に収斂して一点に付く時に、高い精度で転換点のタイミング分析として用いることが出来る、ということになります。

但し、RCIを使用する上で、唯一、注意しなければならないのは、強い上昇トレンド中は連続して上昇する傾向があるため、RCIが上限にベッタリと張り付き横ばい状態(強い下降トレンド中はその逆)となるため判断しづらくなります。これは、時間足をより上位に変更することで補うことができますが時間足を変えない状態で、この欠点を補う為のもう一つの、そして、より重視するテクニカル指標が、ストキャスティクスとなります。

ストキャスティクスもごくありふれた指標ではありますが、RCI同様に10本前後の重ね表示にすると、

やはり視覚的に理屈抜きに相場の転換点がリアルタイムで確認できます。



上図をご覧下さい。前述の通り、RCIは、上限に張り付いてしまいましたが、ストキャスティクスの方は、それ程張り付くことはなく、両指標を同時に見比べることで、より天底判断がしやすくなるということです。

さらには、より上位の時間足のチャートを合わせて、常に同時表示することで判断を補います。

勿論、この2つの指標でも %完全なものになり得るわけではありません。しかし、この重ね表示の RCIとストキャスティクスの複数線の密集度に習熟して行けば、必ず有効な鍵が掴めると思います。

少なくとも他の古典的指標を何本重ね書きしてみたところで、これほどの効果は得られません。

同様の考え方は、移動平均線にも当てはまります。

天底チャートでは、一般的な移動平均線の使用方法(5日線、25日線、75日線等)ではなく、やはり10本以上の重ね表示にしています。

移動平均線も複数本を重ね表示することにより、RCI・ストキャスティクスと同じような『収斂』と『拡散』を

繰り返しますので転換点が視覚的に見やすくなります。

このような3つの組み合わせのチャートとして使うと更に転換点認識の確実さを高めることが出来ます。

天底チャートを一言でまとめますと、

『複数のRCIやストキャスティクスの束が下限で収斂し、交差の後、上向きに拡散を始める時、

それに加えて移動平均線の帯の上にローソク足が出た時は、買い転換(上昇相場)。

逆に、複数のRCIやストキャスティクスの束が上限で収斂し、交差の後、下向きに拡散を始める時、

それに加えて移動平均線の帯の下にローソク足が出た時は、売り転換(下落相場)、』と

ということが見た目で見えやすいチャート、ということになります。

単純なようでいて、この移動平均線というフィルターをかけることによって、より精度を高めることが出来ます。

テクニカル分析の重要ポイントは、とにかく

転換点が明瞭で見易いこと、騙しが少ないこと、タイミングが遅れないこと、

この三つに尽きます。

数ある古典的テクニカル指標の中にあって「複数本数のRCIとストキャスティクスの重ね表示」だけは、

明らかに違う有効度を持っている、ということはかなり自信を持って強調できます。

2. 矢印サインとストキャスティクス線の基本説明

【矢印サインとストキャスティクス線】



(天底チャートでは、ストキャスティクスをより重視していますので、矢印サインもストキャスの波動に基づいています。説明上、上図からRCI部分は外しています。)

■ 矢印サインの説明

白矢印 — 上限、下限域(天井圏、底値圏)での逆張りサイン
(天井圏、底値圏の可能性大)

緑・赤矢印 — 上限、下限域以外(天井圏、底値圏以外)での順張りサイン
(上昇時の押し目買い、下落時の戻り売りのポイントの可能性大)

■ ストキャスティクス線の構成と見方

白 — 超短期線

ピンク — 短期線(3本)

緑 — 中期線(3本)

青 — 長期線

ストキャスティクスの線は、白・ピンク3本・緑3本・青の線で構成されています。

前ページのチャート図のように

白・ピンク3本・緑3本全てが、青ラインの上で、右肩上がり方向であれば、上昇相場

白・ピンク3本・緑3本全てが、青ラインの下で、右肩下がりであれば、下落相場

が基本中の基本となります。

ストキャスティクスの上下限の枠の中(0～100目盛)で、それぞれのラインが収斂と拡散を繰り返します。

基本的な流れとしては、

上昇相場で、①白が上限に接し、②白がピンクを下抜き、③ピンクが緑を下抜き、④白ピンク緑の全てが

青を下抜き(この段階で、全てのラインが青の下に位置します)、下落相場に入ります。そして

①白が下限に接し、②白がピンクを上抜き、③ピンクが緑を上抜き、④白ピンク緑の全てが青を上抜き

(この段階で、全てのラインが青の上に位置します)、上昇相場に入ります。

勿論、この間に複雑に短期線の動きは入りますが、最終的には、ストキャスティクスのラインの特性上

必ずこのような収斂と拡散を繰り返すことになります。

それ故に、全てのラインがきれいな形で、右肩上がりであれば、明確に上昇相場であり

全てのラインがきれいな形で、右肩下がりであれば、明確に下落相場ということになります。

この考え方を基に、上昇相場の途中時には、押し目と判断されるポイントで、上向きの

緑の矢印サインのみ点灯し、下落相場の途中時には、戻りと判断されるポイントで、下向きの

赤の矢印サインのみ点灯することになっています。

3. 天底の判断材料としてのストキャスティクス線

天底チャートは、その名前の通り、天底を捉えるチャートというのが基本概念です。

それ故に、ストキャスティクス線のどのような形状が、天底の判断基準(≡白矢印サイン)と

なり得るのかをいくつかのパターン(具体例)を挙げながら説明します。

これらの形状パターンを習熟されることでサインに頼らずともある程度の判断ができるようになります。

- パターン1** — 白ラインのみが、上限(下限)に接する 又は、 ほぼ接する。
この場合は、白とピンク3本が他の中長期線より大きく乖離している場合のみ。
白矢印のサインが点灯しない場合も多い。
また、白ラインが上・下限に接した後、逆に大きく反転する場合も多い。



- パターン2** — 上限(下限)で、白ラインが、ピンクと交差する。
ピンクの1本目、ピンクの1, 2本目の接点、ピンクの1～3本の接点等さまざま)



パターン3 — 大きな上昇・下落相場で上限(下限)で、ピンク3本が密集し、緑と接する(交差する)。



4. 天底チャートでの基準時間足について

実際のトレード使用での時間足は別としても、常時立ち上げておくべき時間足を1時間足としています。

■ 1時間足を使用する理由①

まずは、次のチャートをご覧ください。



時間	取引種別	注文番号	数量	価格	決済逆指値...	決済指値(T...	損益
2017.06.02 10:00	sell	189	0.10	111.450	112.450	108.450	
2017.06.06 19:00	close	189	0.10	109.535	112.450	108.450	173.42

2017年6月2日～6日にかけてのドル円1時間足チャートですが、週末を跨いでおりますので、実質2日程のスイングトレードの1トレードで、173.42pipsの利益があがっています。

次に、同じ期間での30分足のチャートです。



1時間足の時に比べ、途中で不必要なサイン(売買)が増えてしまいますので、効率が悪くなります。

さらに15分足→5分足→1分足と短い足になればなるほど比例的にサインが増え、無駄な取引だけが増えてしまうということにもなります。

天底を捉えるという天底チャートの概念からもこの点が、1時間足を使用する理由の一つとなります。

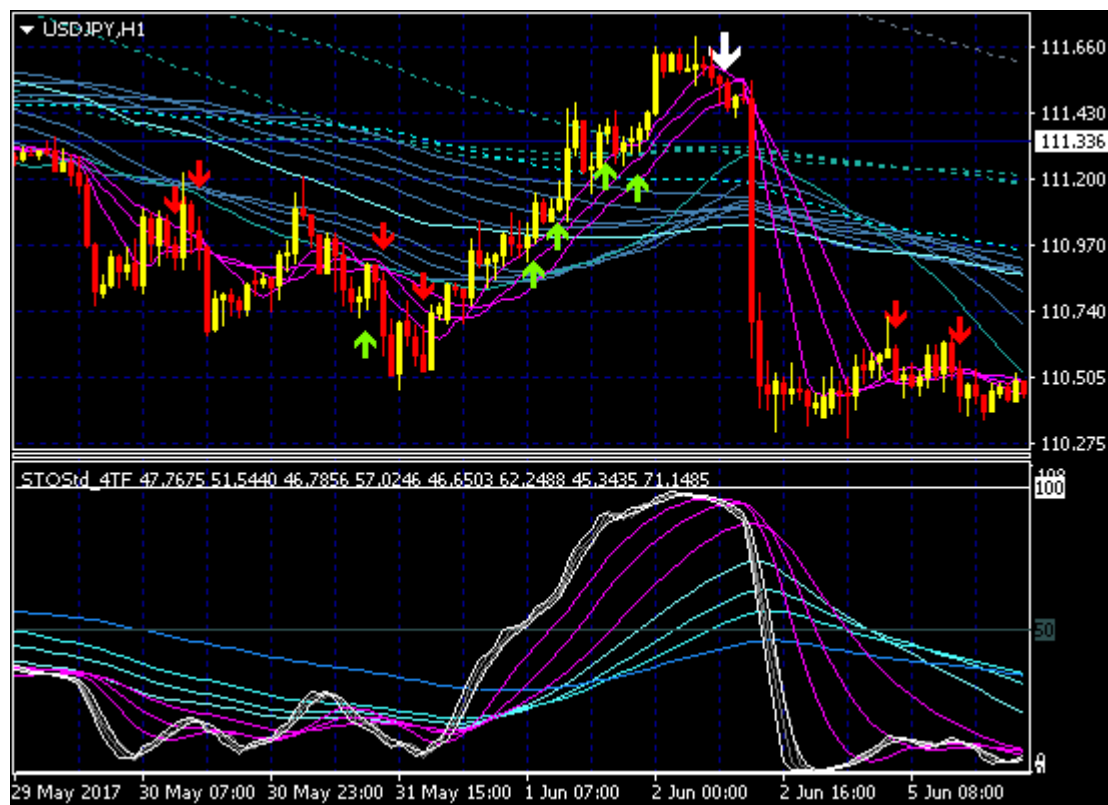
■ 1時間足を使用する理由②

「木を見て、森を見ず」という格言があります。

小さな上昇、下落の動きであれば特に問題はありませんが、上昇・下落の相場の大きさによって、ストキャスティクスの波動(帯線の上限から下限、下限から上限への動きの繰り返し)がその時間足ではカバーしきれない状態がしばしば起こります。

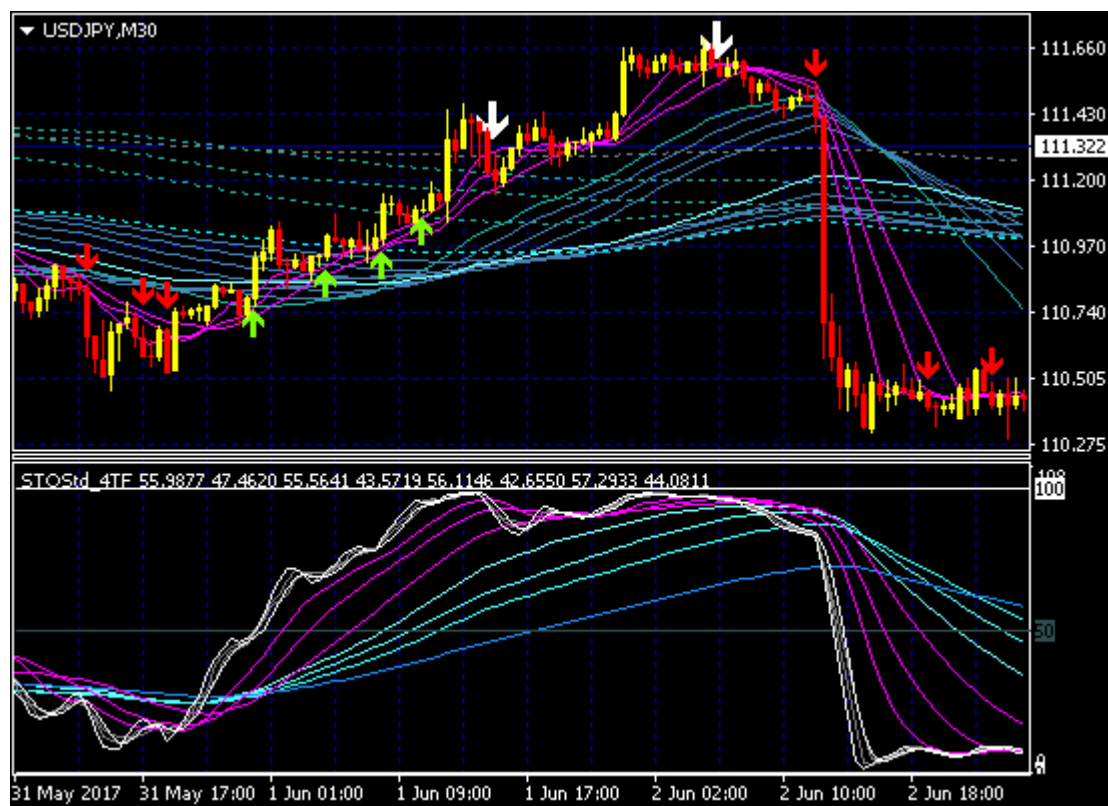
2017年6月2日のドル円チャートの天井部分为例に見ていきます。

1時間足

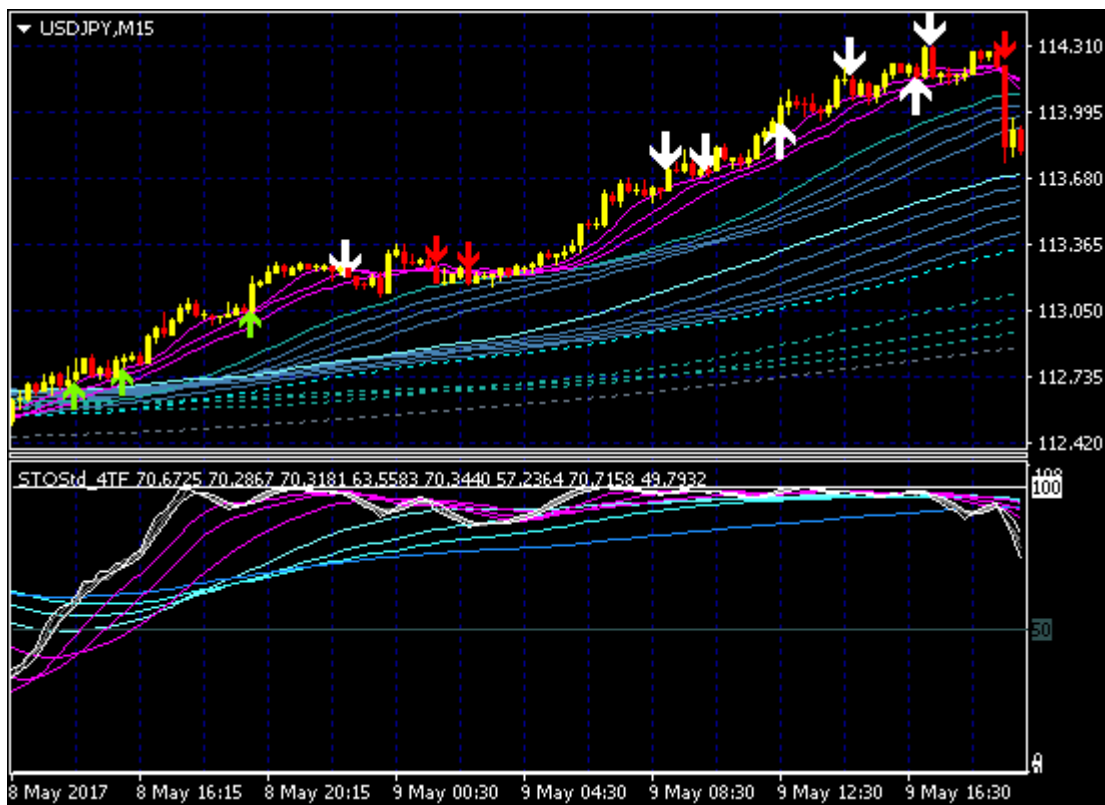


白がピンクに接する前述の天底判断のパターン2の状態です。

30分足



30分足でもカバーできていますが、白がピンクに接するパターン2(一番天井)の後、さらに上昇しピンクが緑に接するパターン3(二番天井)のケースとなっています。



15分足では、カバーしきれない上昇波動で、全てのラインが上限域で密集し(張り付き)判断しづらい形状です。

このように一旦、相場が大きく動くと短い時間足ではカバーできなくなり、全体(=森)の中での現在値(=木)の位置付けがわからなくなります。それ故、まずは、大きな流れを常時把握(1時間足)
した上で、より詳細な現在の動き(1～30分足)を見るようにするのが安全策となります。

相場の大きさによっては、1時間足でもカバーできず、4時間足や日足を使用しなければならない
大きな相場もできますが、最大公約数的な意味合いで、基準を1時間足としています。

5. 複数の時間足チャートで見ることの重要性

あくまでも常時立ちあげておくべき基準足を1時間足としておりますが、1時間足のみにてトレードする
ということではありません。天底チャートの中段・下段のそれぞれのテクニカル指標は、移動平均線と同様に
どの時間足でも普遍的に使用可能なものです。

前述の天底判断材料のチャート画面のパターン1でも記載の通り、白サインが点灯しないという場合もあります。

しかし、1時間足では点灯しない場合でも、それ以下の短い足では点灯することになります。

同じ時点(下のチャートの赤丸のところ)での次の3つチャート(1時間足、30分足、15分足)を見比べて下さい。

1時間足



30 分足





このように1時間足では白サインが点灯しないような場合でも、それ以下の短い足のいずれかでは白サインが点灯しますので短い時間枠での天底の動きが確認できます。

同じ時点をより短い時間足で見れば、それぞれの時間足レベルでの天底の上下の動きがあります。

極端に言えば、1分足チャートでも1分足チャートの時間軸での天底があります。

しかし、同じ天底の値幅でも時間足によりその上下幅は全く異なります。

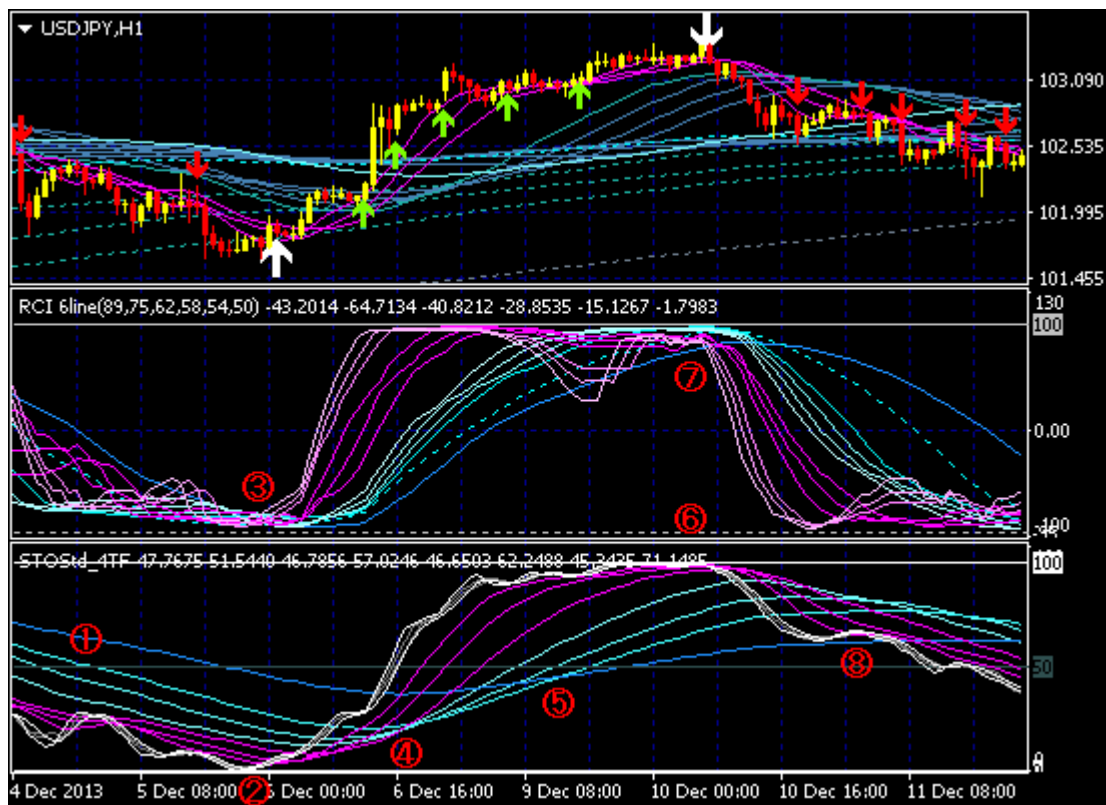
本マニュアルにてお伝えしたいことは、チャートを見る上で最も重要なことは、

「常に複数の時間足で見る」ということです。

天底チャート MT4 では、一応の基準足として1時間足とはしておりますが、1時間足のみでトレードを行うという意味では全くなく、1時間足を中心軸にして(相場の状況によってはより長い時間足)、全体相場に対する現時点の位置付けを常に把握した上で、具体的なエントリー・エグジットの時には、その場その場の細かな動きをあたかも、虫眼鏡で見るような感覚で、より短い足(1～30分足)も見るように心掛けてください。

6. 天底チャートの動きのシュミレーション例

一つの例として、底値から天井までの実際の流れを見てみましょう。



- ① 全てのラインが青の下で、下落継続状態。
- ② 下限で、白がピンクに接し、底値形成(白矢印点灯)
- ③ 同時にRCIも全てのラインが下限で密集。
- ④ 白がピンク3本を上抜き、ピンクが緑に接し、さらにピンク3本が緑を上抜くことで上昇へ転換。
- ⑤ 全てのラインが青を上抜き、上昇相場。
- ⑥ 上限で、白がピンク3本に接し、天井形成(白矢印点灯)。
- ⑦ 同時にRCIも全てのラインが上限で密集。
- ⑧ 白がピンク3本を下抜き、ピンクが緑に接し、さらにピンク3本が緑を下抜くことで下落へ転換。

7. 天底チャートでのエントリー・利確・損切りについて

■ 矢印サインをどの程度まで利用すべきか？

仮に1時間足で全てサイン通りにトレードをおこなったとして、過去1年間(2016/06/24~2017/06/23)のバックテストを次の条件にておこなってみました。

【取引条件】

通貨ペア: ドル円 (スプレッド10)

時間足: 1時間足

エントリーロット数: 0.1

最大ポジション数: 1

損切り幅: 100pips

利確幅: 300pips

エントリー・決済条件:

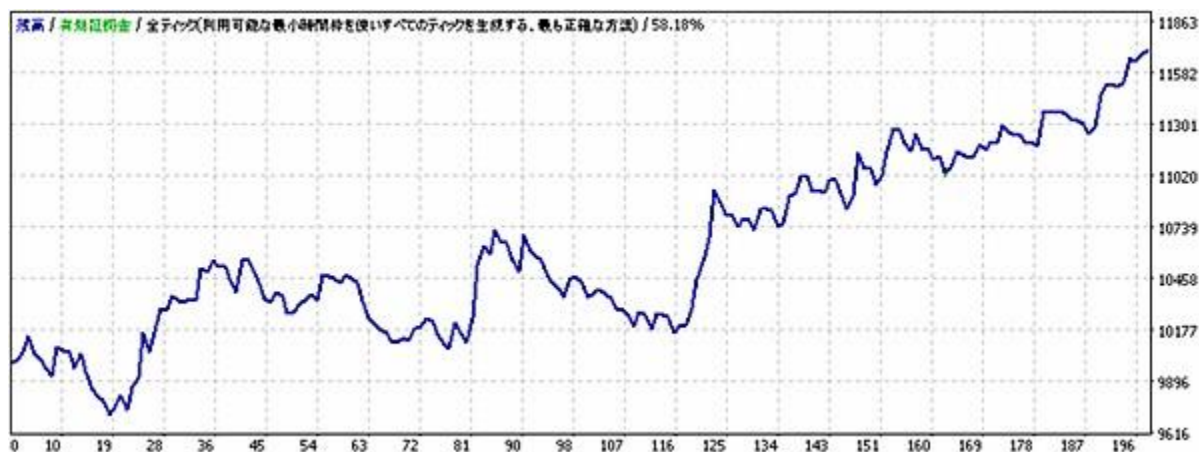
最大ポジション数が1なので、エントリーしたポジションがあるときは、ポジションが決済されるまで新たにポジションは取らない(つまり、エントリー後の同一方向のサインは無視)。

ポジションを持っている間に反対方向の矢印サインが出た場合は保有ポジションを強制決済し、同時に反対方向にポジションを取ります。

損切り/利確の幅に達することでポジションがなくなった状態で、新たに矢印サインが出たときには新規にその方向にポジションを取ります。

バックテストの結果は、次の通りです。

テストバー数	7178	モデルティック数	12607116	モデリング品質	58.18%
不整合チャートエラー	13				
初期証拠金	10000.00			スプレッド	10
純益	1707.81	総利益	6532.71	総損失	-4824.90
プロフィットファクタ	1.35	期待利得	8.67		
絶対ドローダウン	298.91	最大ドローダウン	737.36 (6.77%)	相対ドローダウン	6.77% (737.36)
総取引数	197	売りポジション(勝率%)	101 (38.61%)	買いポジション(勝率%)	96 (47.92%)
		勝率(%)	85 (43.15%)	負率(%)	112 (56.85%)
年利17%相当	最大	勝トレード	295.81	敗トレード	-99.37
	平均	勝トレード	76.86	敗トレード	-43.08
	最大	連勝(金額)	5 (748.56)	連敗(金額)	9 (-367.48)
	最大	連勝(トレード数)	748.56 (5)	連敗(トレード数)	-367.48 (9)
	平均	連勝	2	連敗	2



結果は、年利17%の利益は出ていますが、特別に優れているという数字でもなく、可もなく不可もなくというレベルです。

これは、当然の結果で、その理由としては、

天底圏で点灯する逆張りの白のサインは別として、緑赤の順張りサインは、もみ合いや横ばい状態の

チャートでもストキャスティクスの動きに忠実に従って点灯しますので、いわゆる無駄なサインも

どうしても点灯してしまうことになり、結果的に多くの不要なトレードを含むことになります。

短い時間足になればなるほど、この傾向が強まります。よって、前述のバックテストは、それらの部分

も多く含んだ結果とお考え下さい。逆に言えば、もみ合いや横ばい状態での緑赤サインでのエントリー

を極力避ければ、バックテストの結果を大幅に超える数字を出すことが可能になるわけです。

チャートの値動きの流れにおいて、白サインが点灯の条件に満たず、その前に、反対方向へ

折り返してしまうということもよくありますので、それを補うために、緑赤サインを設けています。

従いまして、これらは、エントリーポイントという意味合いではなく、方向性を示すものという設計思考で

緑赤サインを位置づけています。

■ 天底チャートでの矢印サインの位置づけ

天底チャートでは、矢印サインをもつてのエントリーも可能ではありますが、エントリーポイントそのもの

を示すというより、ストキャスティクス線の波動の転換ポイントを矢印で示しているという考えです。

白矢印 — 天井圏・底値圏での逆張りサインで、概ね天井・底値を示している可能性は大きいですがエントリーポイントとしてそのまま利用することは、リスクを伴うことも確かです。ポジションを保有している場合の利確ポイントとして利用することを推奨しています。

緑・赤矢印 — 天井圏・底値圏以外での順張りサインですが、もみ合いや横ばい状態の時も点灯します。それ故、明確な上昇・下落相場での押し目買い、戻り売りのエントリーポイントとして利用することを推奨しています。

■ 矢印サインを使っのエントリーとエグジット(利確)

本マニュアルでは、リスクを最小減に抑えながら、天底チャートのメリットを最大限に有効活用する

エントリーとエグジットによるトレード方法を推奨しています。

<エントリー>

天井圏・底値圏で白サイン点灯後、ストキャスティクスはピンク3本と緑3本の上下位置関係がねじれて入れ替わり、さらに全てのラインが青ラインを抜く、あるいは、抜きつつある状態になったあたりから点灯し出す緑赤サインに従いエントリー。

白サインまたは、ストキャスティクスの複数ラインが上限に達したあたりでエグジット。

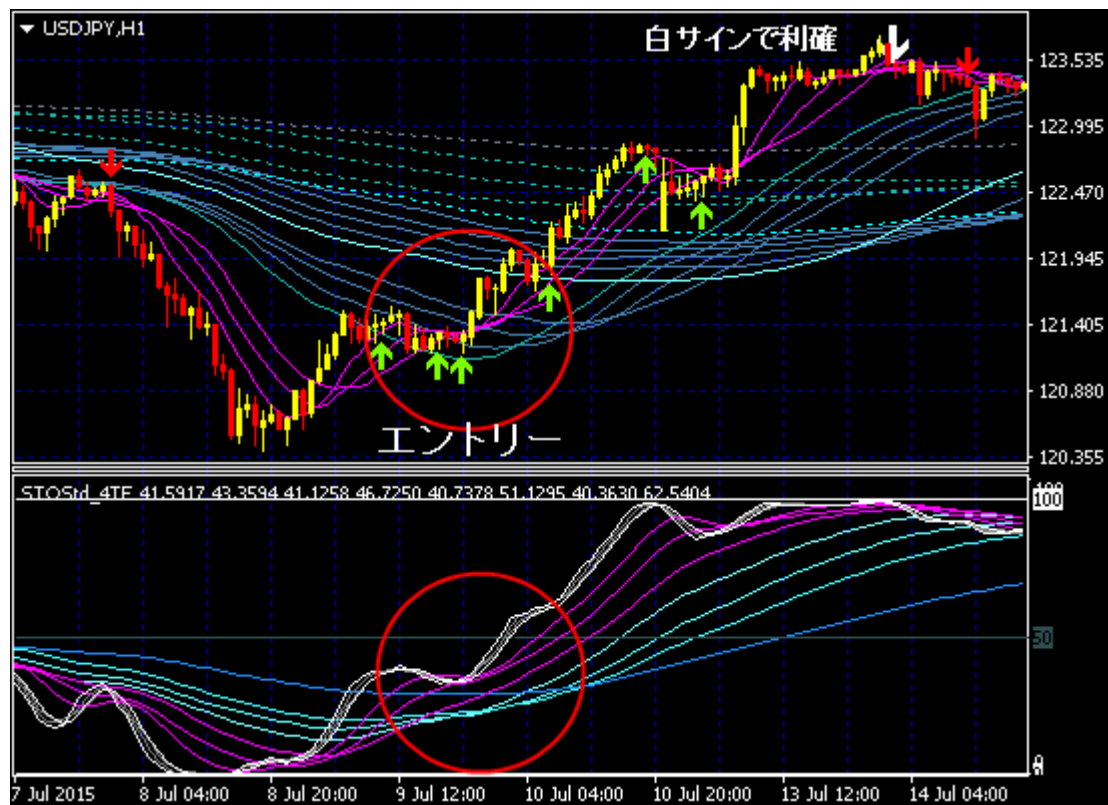
これをシンプルに表すと

明確な動きが出たら、
緑・赤サインでエントリー
白サインで利確

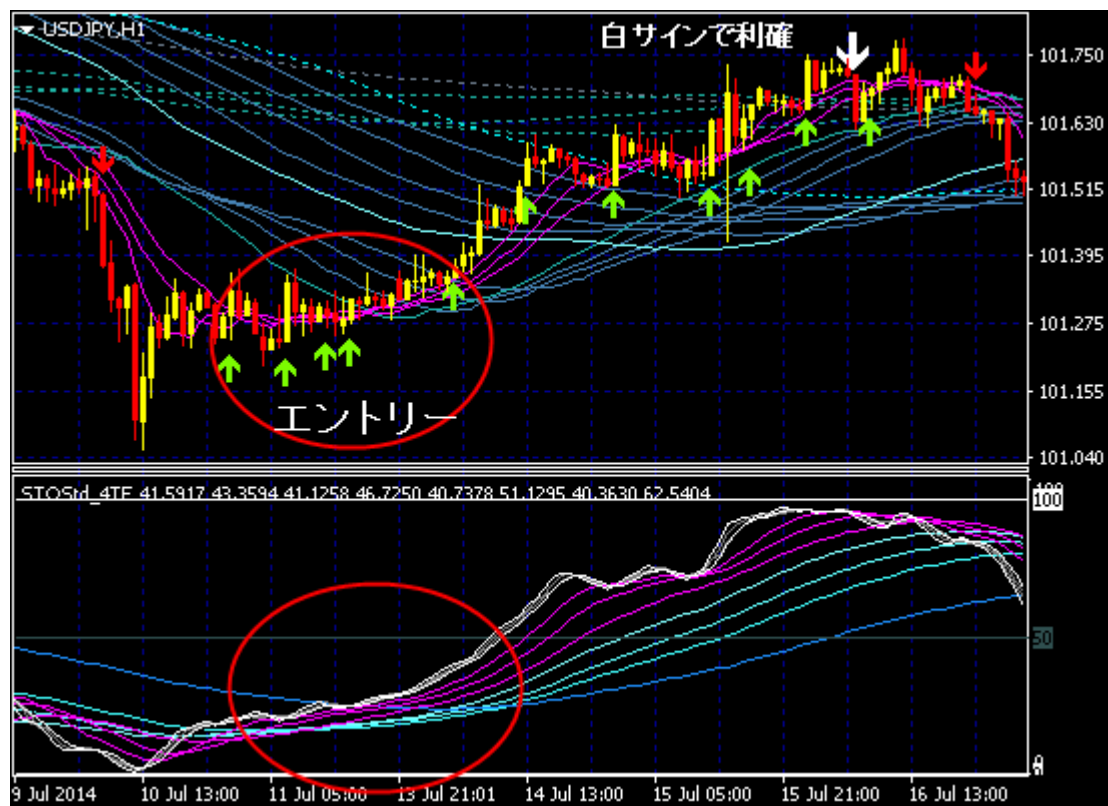
となります。

エントリー・エグジット時には、1時間足以下の短い足でのチャートのサインやストキャスティクスの動きも参考にするとより良いエントリー・エグジットのタイミングを計ることも可能となります。

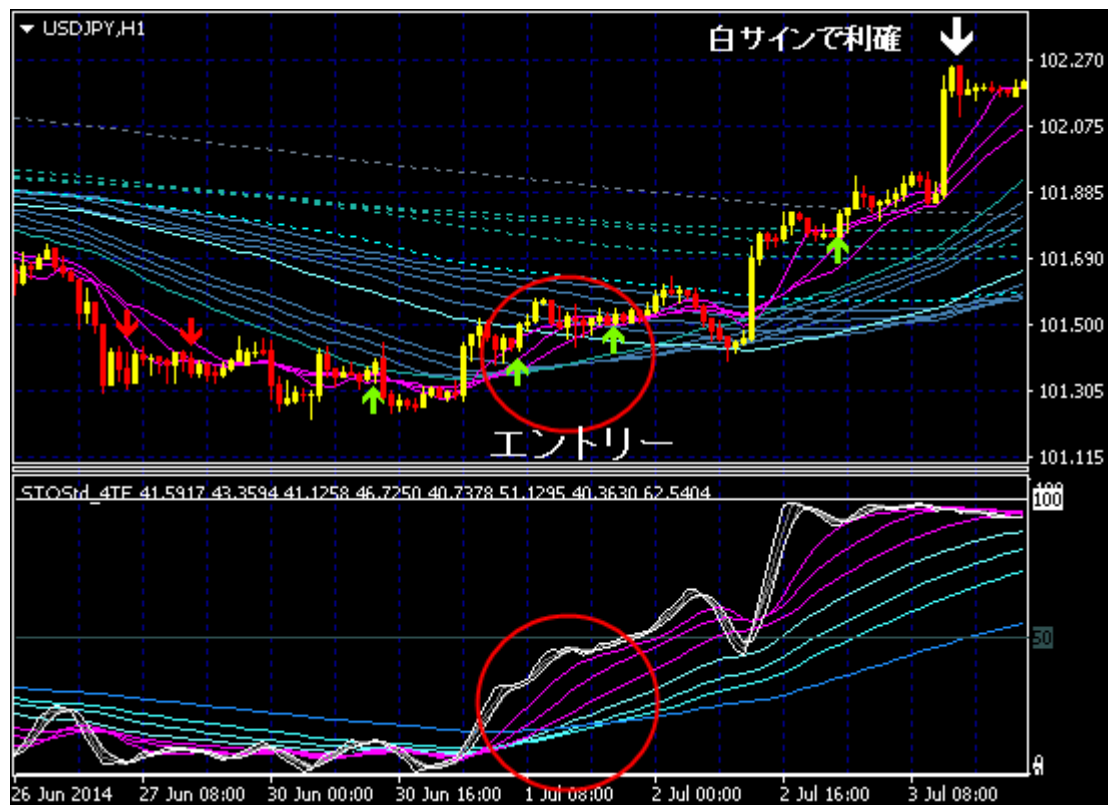
底値圏からの買いサインエントリー 例①



底値圏からの買いサインエントリー 例②



底値圏からの買いサインエントリー 例③



天井圏からの売りサインエントリー 例④



天井圏からの売りサインエントリー 例⑤



天井圏からの売りサインエントリー 例⑥



本マニュアルでは、リスク回避の意味合いで、白サインはあくまでも利確ポイントとして利用する方法を推奨していますが、ストキャスティクスの波動の形状に慣れ、サインに頼らずとも天底判断が自信を持ってできるようになれば、ご自身の判断と白サインが概ね合致するようになります。

既にポジションを持っていれば、白サインが利確のポイントですので、既に利確できているのでその場合は、そのまま白サインでのエントリーも可能でしょう。

そうなれば、天底チャートの目標であり、かつ、醍醐味でもある天⇄底の一気のトレードというのも可能となります。

天⇄底 1トレードの例



時間	取引種別	注文番号	数量	価格	決済逆指値...	決済指値(T...	損益
2017.06.02 10:00	sell	189	0.10	111.450	112.450	108.450	
2017.06.06 19:00	close	189	0.10	109.535	112.450	108.450	173.42



時間	取引種別	注文番号	数量	価格	決済逆指値...	決済指値(T...	損益
2017.03.31 07:00	sell	153	0.10	111.827	112.827	108.827	
2017.04.04 13:00	close	153	0.10	110.502	112.827	108.827	118.50



時間	取引種別	注文番号	数量	価格	決済逆指値...	決済指値(T...	損益
2017.03.27 14:00	buy	152	0.10	110.353	109.353	113.353	
2017.03.31 07:00	close	152	0.10	111.826	109.353	113.353	131.52

■ 利確幅と損切り幅について

利確についての基本的な考え方は、既述の通り、白サインでもって利確するということではあります
が実際の注文入れの際には、利確幅と損切り幅の設定をおこなっておくのが通常トレードの方法です。

天底チャートでは、1時間足を基準足としていますので、過去データから検証結果の最適数値としては
損切り幅 100pips、利確幅 300pips（※16ページのバックテスト参照）を使用していますが、日々の
トレードにおいては、もう少し控えめの設定でもよいでしょう。

また、チャート自体は、1時間足を基準足としていますが、実際の注文入れの時点では、より良い
タイミングを計るために時間足以下の短い足も使用しますので、各時間足に対応する損切り幅と利確幅の
目安を一覧にします。

（エントリーロット数 0.10 ポジション数1での場合）

	損切り幅	利確幅
1時間足	60～100 pips	200～300 pips
30分足	40～60 pips	100～200 pips
15分足	20～40 pips	50～100 pips
1～5分足	20 pips	50 pips

8. 日経225先物取引について

メタトレーダー(MT4)は、主にFX(外国為替取引)用のトレーディングツールとして利用されていますがFX会社各社の取扱通貨、品目の中には、金、プラチナ等の先物取引に加え、各国の指数先物取引のCFDを取り扱っているところがあります。

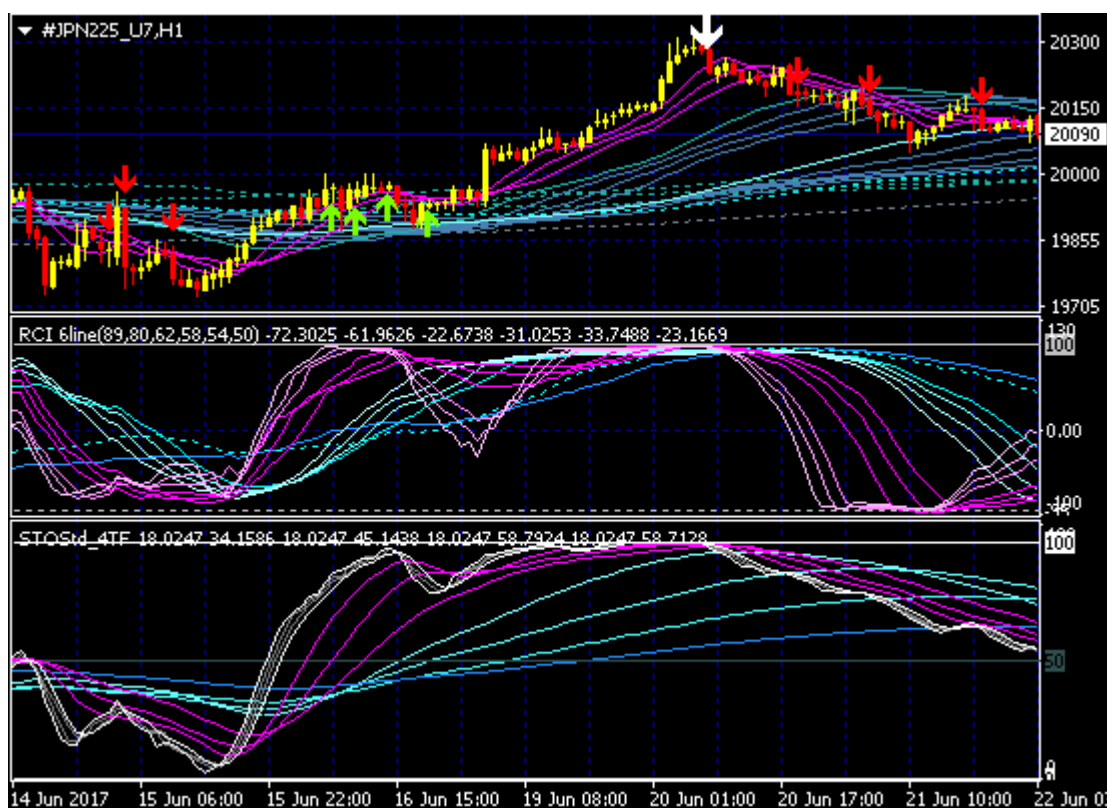
FX会社の中には、日経225指数先物取引もJapan225CFDとして、取引できるところもあり、実際のトレードをおこなわないまでも、チャートとして十分利用することができます(NYダウも可能)。

日経225のトレードをおこなわれている方には、メタトレーダー(MT4)で、チャートを見られることをお勧めします。

天底チャートは、メタトレーダーで表示可能な全てのチャートに対応可能ですので、勿論、

日経225のチャートでも問題なく矢印サイン表示ができます。

日経225CFD (JPN225) 1時間足の天底チャート



9. サイン発生時のアラート音・メール通知機能について

初期設定では、サイン発生時のアラート音やメール通知の機能は無効となっていますが

任意でこれらの機能を有効にすることができます。

■ 設定方法

チャート上で右クリックをし、「表示中のインジケータ」をクリックして、白サイン用の

「Stochastic_Cross_Alert_Except」と緑赤サイン用の「Stochastic_Cross_Alert_Normal」を編集してください。



「編集」ボタンを押されますと次ページのようなパラメーター入力画面になりますので、SoundON(アラート音)、EmailON(メール通知機能)をそれぞれfalseからtrueへ変更の上保存して下さい。

なお、それ以外のパラメーター数値は変更されないようにして下さい。

変更されますと 天底チャートとしてのサイン機能に支障がでる可能性があります。



■ メール通知機能の追加設定について

メール通知機能は、上記設定だけではメールは届きません。ご自身のメールアドレスで受信する為のメタトレーダーでのオプション設定が追加が必要です。

メタトレーダーの上部メニューバーの「ツール」→「オプション」→「E - メール」を開きます。



前ページの画像は、yahooメールアドレスでの例です。

「有効にする」にチェックを入れ、それぞれの項目を入力し、OKボタンで設定完了です。

正しく機能するかは、「テスト」を押せばテストメールが届きますので確認できます。

Gmailの場合は、SMTPサーバーの入力は、「smtp.gmail.com:465」となります。

他のプロバイダーのメールアドレスを使用する際は、各プロバイダーに確認の上、

そのプロバイダーのsmtpサーバーを入力してください。

※ アラート音とメール通知は、前回と反対の方向のサインが出たときのみ発信される制御になっています。同じ方向のサインが連続したときは通知されません。

10. サポートについて

サポート窓口：株式会社ケンコンサルティング

サポート期間：本マニュアル購入の代金決済完了日から365日間（1年）

サポート回数：特に回数制限は設けておりません。

サポート連絡方法：メールのみにて承ります。

サポートメールアドレス：mail@shozai.info

メタトレーダー（MT4）についての問い合わせは、サポートの対象外とさせていただきます。

お問い合わせ先情報

販売会社：株式会社ケンコンサルティング

住所：東京都世田谷区成城8-31-9-303

電話番号：03-6411-9123

メールアドレス：info@shozai.info

【FXおよび株式投資のリスクについて】

当商品の情報提供はお客様の利益を保証するものではありません。FX取引や株価指数先物取引等の取引に際しては、相場の変動や取引会社の信用状態の悪化等により、損失を生じるおそれがあります。また、FX取引や株価指数先物取引には取引業者の売買手数料がかかります。取引を開始する際または継続する際には、そのリスクについて十分にご理解の上、行ってください。

免責事項および責任範囲について

本マニュアル等で提供される情報は、外国為替証拠金取引や株価指数先物取引等をトレードする際の目安を提供するものであり、その情報に基づいたトレードでの利益を保証するものではありません。

本マニュアル等の情報に基づいて、上記の取引を行われたとしても、その投資結果に関しては、あくまで、ご購入者様ご自身の自己責任とさせていただきます。従いまして、本マニュアル等の情報に基づいてトレードされた結果により、ご購入者様にいかなる損害が被ろうとも、当方は一切の責任を負わないものとします。

また、トレードの際には、上記の内容、および、ご購入者様の資金管理等も十分考慮の上、最終的には、ご購入者様の己判断において行っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。